

## 平成27年度佐久農業青年プロジェクト活動・意見発表会を開催しました！

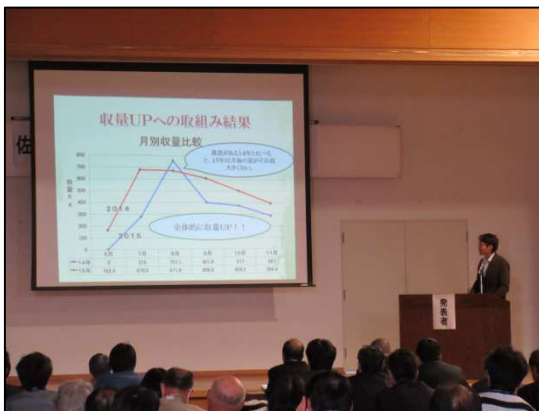
平成27年12月3日（木）に佐久合同庁舎講堂において佐久農業青年プロジェクト活動・意見発表会を開催しました。佐久地域の青年農業者が、日頃の農業生産活動や青年クラブ活動の課題解決プロジェクトに取り組んだ成果や、農業全体に対する意見を発表しました。青年農業者のほか、各地域の農業青年クラブ員や市町村、農業高校生、普及センター等総勢75名が参加しました。

プロジェクト発表の部では、「遊休農地を活用した事業について」の佐久市耕友会の佐藤広和さん、「りんご減農薬栽培への道～フェロモントラップ調査を活用した部会員の意識改革～」の小諸市農業青年クラブの野元勝也さん、「素人によるミニトマト栽培挑戦～ミニトマトの経営改善プロジェクト～」の農業士協会南佐久支部の小池浩二さんの3名が出場しました。審査の結果、大変僅差ではありましたが、最優秀賞には小池浩二さんが選ばれました。個別の経営改善への取組でしたが、奥様の農業への参画を促し、やる気を引き出されたことが大いに評価されました。

意見発表の部では、「農業と地域の関わりについて」の立科町農業青年クラブの関陽一さん、「私の目指す農業経営」の南相木村の深澤嘉仁さん、「次世代の農業を目指して」の御代田町浅間クラブの平山智之さんの3名が出場しました。いずれの発表も農業への強い意気込みを語り、甲乙つけがたい内容でしたが、審査の結果、最優秀賞には関陽一さんが選ばれました。地域との関わり方について、食育の取組もされていたことが評価されました。

また、参考発表として、佐久平総合技術高校の生徒より、「ヤギたちとの挑戦」や、「光変換ピンク農法の研究」と題して、非常に参考となる取組を発表していただきました。

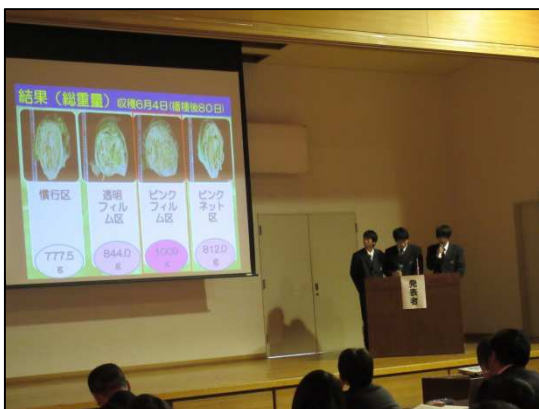
それぞれの部で最優秀賞を受賞した小池浩二さんと関陽一さんは、来年の2月5日に開催されます「明日の長野県農業を担う若人のつどい」へ佐久代表として出場します。



プロジェクト発表



意見発表



農業高校生の発表



表彰式

本発表会では、第2部としてパネルディスカッションを併せて開催しました。「私のターニングポイント～農業経営の向上を目指して～」をテーマとして、パネラーに長和町の吉見雅史氏、佐久市の坂下理人氏、小諸市の井澤勇樹氏をお招きし、コーディネーターは佐久市の大塚悠氏と掛川佳孝氏が務めました。

簡単な自己紹介の後、パネラーご自身のターニングポイントについて、お話しいただきました。アスパラマル株式会社の代表取締役社長である吉見氏は、やはり法人を設立したことが大きなポイントであり、1ターンで佐久に就農した坂下氏は、農業を始めた時と目標を明確にしたことが大きなポイントであったとのことでした。父親と同時に農業を始めたという井澤氏は、信州農業MBA研修を受けたことをきっかけとして、経営者としての考え方を学びつつあることがポイントであるとのことでした。

また、企業理念や法人化についての話から始まり、親の代から農業を継ぐことに対する考え方などの話もありました。さらに、大きなポイントとなりそうな結婚の話まで、パネラー自身が日頃感じていることをざっくばらんにお話しいただき、新規就農者にとっては非常に参考となる話が聞けたのではないかと思います。

会場からは、目標達成のために必要なことについて、経営主である父親との関係について、雇用の難しさについて等の質問が出ましたが、パネラーの方に丁寧に回答いただきました。最後にコーディネーターより、「日頃の農業経営の中で直面する課題は多くありますが、常に何かしようと考えることが最も重要だと感じました。」と、今回のパネルディスカッションをまとめました。



パネルディスカッション



パネラー



コーディネーター



会場からも参加